



安倍川治水の歴史を解説する細野課長と参加者ら = スマイルあさはた

## ～ 高齢者学級「みのり大学・<sup>あさはた</sup>麻機学級」で郷土講座 ～ 『知っておきたい安倍川のはなし』

- 今から400年前、徳川家康公は駿府城や駿府（静岡市）の町を安倍川の洪水から守るため、<sup>さつまどて</sup>薩摩土手と呼ばれる堤防を造り、自由気ままに流れていた安倍川の流れを変える大改修を行った。これにより、浸水被害の軽減に繋がり、後の静岡市発展の礎を築くことになった。そんな家康公と安倍川治水の歴史などを学ぶ郷土講座が6月23日（木）、静岡市葵区有永の「スマイルあさはた」で開かれた。静岡市麻機地区に居住する高齢者34名が参加し、<sup>ほその たかし</sup>国土交通省静岡河川事務所の細野貴司調査課長が講師を務めた。

安倍川の流れや水の綺麗さなど、他の川との比較を写真で見ながらその違いと特徴を解説した細野課長は、「安倍川は我が国屈指の急流河川で、土砂混じりの洪水が一気に流れ下る。薩摩土手や大正3年洪水を契機に進められた堤防の大改修など、先人の努力によって、幸いにも、ここ100年間は甚大な浸水被害を被っていないが、近年の気候変動に伴う地球規模の自然災害の増大は決して無視できない状況。今後も必要な治水対策など防災事業は着実に進めていく必要がある」と語った。

その他、この地域の地名由来や昭和49年7月、麻機地区で甚大な浸水被害を起こした七夕豪雨なども紹介され、会場に集まった参加者は地域の話に熱心に耳を傾けていた。



安倍川の洪水の様子（平成23年7月撮影）